HITACHI
Inspire the Next

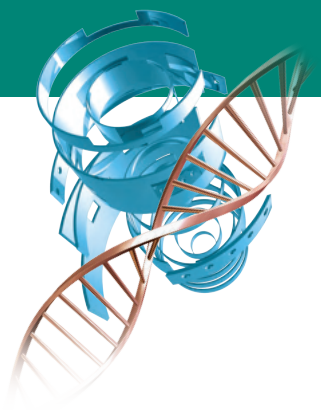
Evolution & Succession, for the Future

Hitachi High-Tech, Naka Area

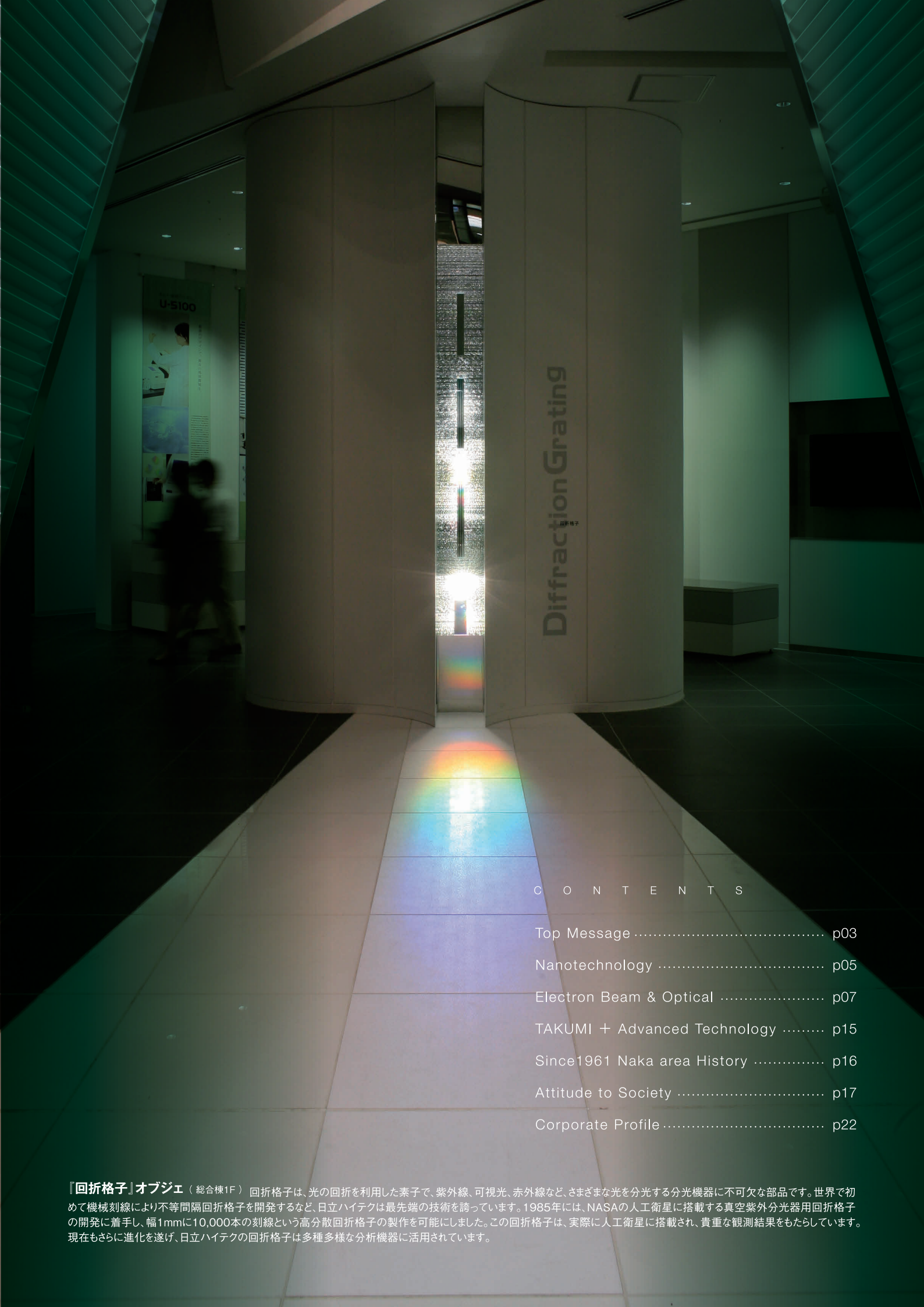
The Future is

High Tech & Integration

あくなき探求心で
私たちは、
道を拓き、
至高をめざす。



技術開発、そして製品開発のプロセスにおいて、
その道は決して平坦なものではありません。
高い壁を乗り越え、険しい道でも新たな発想と
確かな行動力で切り拓き、進んできました。
日立ハイテクグループのテクノロジーを担う事業所として
これからもそのスタンスを貫き、歩んでまいります。



C O N T E N T S

Top Message p03
Nanotechnology p05
Electron Beam & Optical p07
TAKUMI ＋ Advanced Technology p15
Since1961 Naka area History p16
Attitude to Society p17
Corporate Profile p22

『回折格子』オブジェ（総合棟1F） 回折格子は、光の回折を利用した素子で、紫外線、可視光、赤外線など、さまざまな光を分光する分光機器に不可欠な部品です。世界で初めて機械刻線により不等間隔回折格子を開発するなど、日立ハイテクは最先端の技術を誇っています。1985年には、NASAの人工衛星に搭載する真空紫外分光器用回折格子の開発に着手し、幅1mmに10,000本の刻線という高分散回折格子の製作を可能にしました。この回折格子は、実際に人工衛星に搭載され、貴重な観測結果をもたらしています。現在もさらに進化を遂げ、日立ハイテクの回折格子は多種多様な分析機器に活用されています。

Vision



知る力で、世界を、未来を変えていく





那珂地区長

矢野　学

私たち日立ハイテクは、「知る力で、世界を、未来を変えていく」というビジョンのもと、社会やお客さまの真の課題を正しく知ることで、最適な解決策（先端技術、製品、サービス等）を提供し、持続可能な社会の実現に貢献します。那珂地区設立60年の歩みの中で、既存のコア技術の応用により、新たな事業分野を開拓し、最先端の製品やソリューションを、グローバルネットワークを駆使して最前線のお客様に提供しています。

日立ハイテク最大の設計開発及び製造の拠点である那珂地区は、「見えないものを見る、測れないものをはかる。」というテーマで、ヘルスケアソリューション事業、ナノテクノロジーソリューション事業、コアテクノロジーソリューション事業において、さまざまな技術・製品を生み出すとともに、積極的な事業創造の推進に力を注いでいます。

那珂地区の製品は海外で活躍するものが多くあります。世界における製品の信頼を高め、付加価値の高い事業を推進し、開発およびモノづくりの観点で社会に寄与していくことが、私たちの役割だと思っています。そのために、開発スピードの加速や、世界各国のお客様とのコラボレーションの推進、創造的（Creative Minds.）・革新的（Innovative Solutions.）な価値の提供を重要視していきます。

広く社会や産業のためにベストソリューションを提供することにより、お客様とともに成長し、さらに進化していく。日立ハイテクおよび那珂地区が、世界のお客様から信頼される「ベスト・ソリューション・パートナー」となるべく、私たちは常に新しい挑戦を続けていきます。

Nano technology

「見る」から「測る」、そして「役立つ」へ。

目に見えない小さなものが見たい。正確に測りたい。日立ハイテクの原動力は、技術へのあくなき探求心。

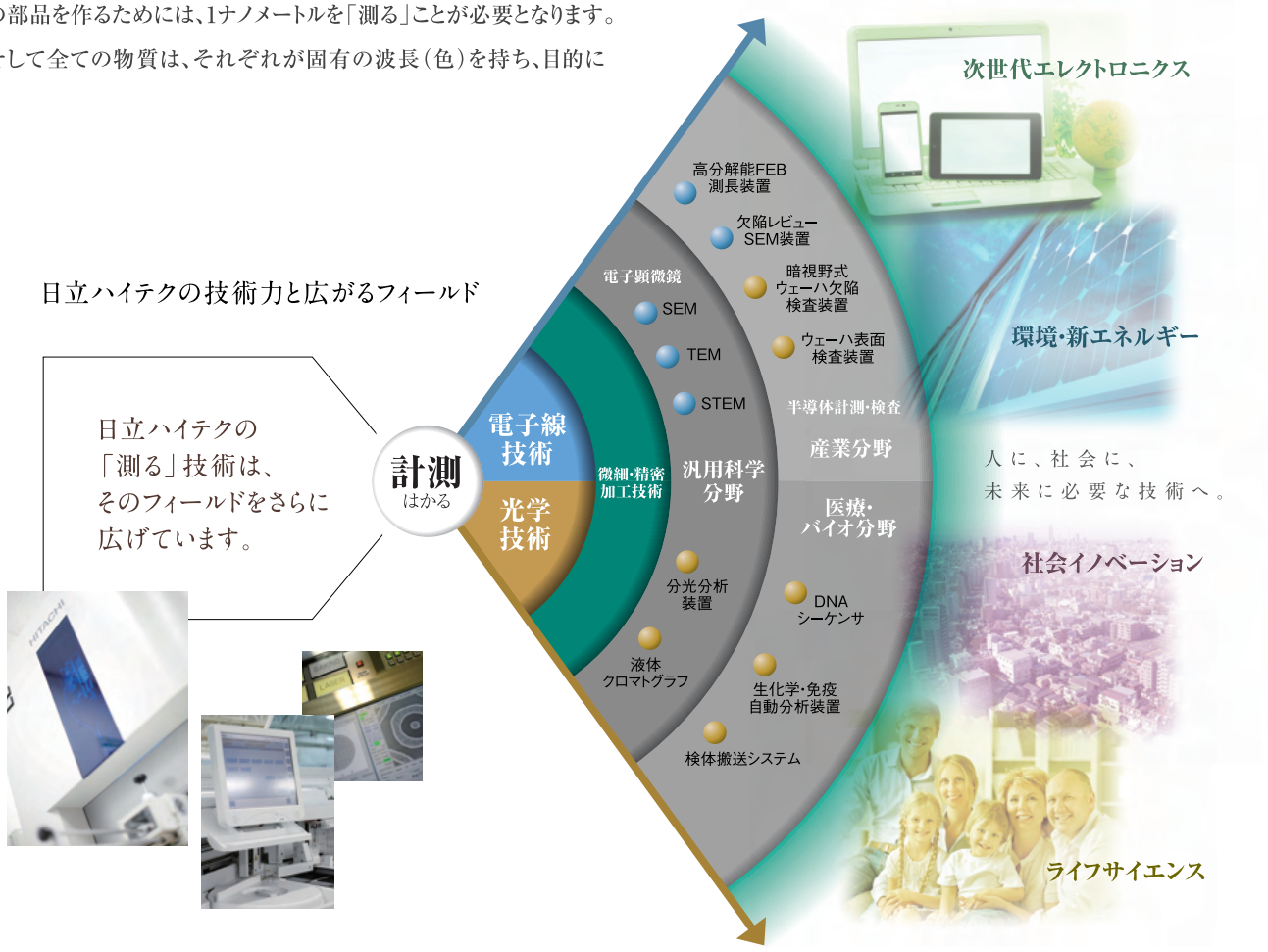
『人の目には見えない小さなものが見たい』。その思いに応えるため、電子顕微鏡を世に送り出しました。『人の目ではとらえることのできない光を見つめたい』。そうした思いが、様々な分析装置を進化させてきました。

ナノテクノロジーは、私たちの生活に欠かすことができない半導体デバイスを作るために必要な技術です。半導体デバイスは、スマートフォンなどの携帯端末や家電をはじめ、人々の暮らしや社会の基盤をつくる、様々な製品に活用されています。また、血液や食品、製薬の分野においては、構成する成分を分析する光の技術が必要となります。人々の生命に関わるあらゆる分野で分析装置や検査システムとして、その技術は活躍しています。

ナノとは1メートルの10億分の1という長さの単位です。1ナノメートルの部品を作るためには、1ナノメートルを「測る」ことが必要となります。そして全ての物質は、それぞれが固有の波長（色）を持ち、目的にしたがって適切な質量と濃度を有しています。成分を解析し、注目する物質を特定して濃度を「測る」ことが必要となります。つまり、モノを「作る」「判定する」ためには、「見る」そして「測る」ことが、重要なファクターとなっているのです。とても小さな世界の技術、目には見えない技術をさらに発展させて、私たちの毎日の生活をより豊かにしていきたい。日立ハイテクは、あくなき技術へのチャレンジを続けてきました。

「見る」から「測る」、そして「役立つ」へ。毎日の暮らしを豊かにするモノ、街をカタチ作るモノ、命を支えるモノ。人と社会の発展のために日立ハイテクの技術は、これからも進化を続けていきます。

日立ハイテクの技術力と広がるフィールド



「新しい」を、もっと。ここから。

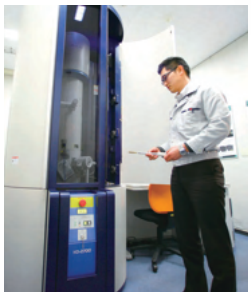
個性が集まり、組織を超えて、技術者たちが刺激しあう。そこに最先端への扉を開くシナジーが生まれていく。

日立ハイテク那珂地区は、ヘルスケアソリューション事業とナノテクノロジーソリューション事業、コアテクノロジーソリューション事業における設計開発および製造を行っています。その最も大きな特徴は、きわめて高い技術的ポテンシャルを有していることです。半導体検査装置を手がける一方、血液の自動分析装置をラインナップするなど、多彩な技術をベースに持っています。

また、日立グループとしてのDNAを持つと同時に、異業種が集まることでシナジー効果を高める日立グループの文化・風土も根付いています。組織を超えて、さまざまな役割の技術者たちが交流し、刺激しあう。そこに、最先端へとチャレンジするパッションも生まれます。

一方、日立製作所をはじめ、さまざまな企業や大学、研究機関などとのネットワークも広がり、技術力への高い信頼から世界でビジネスを展開する数多くの企業とも確かなパートナーシップを結んでいます。

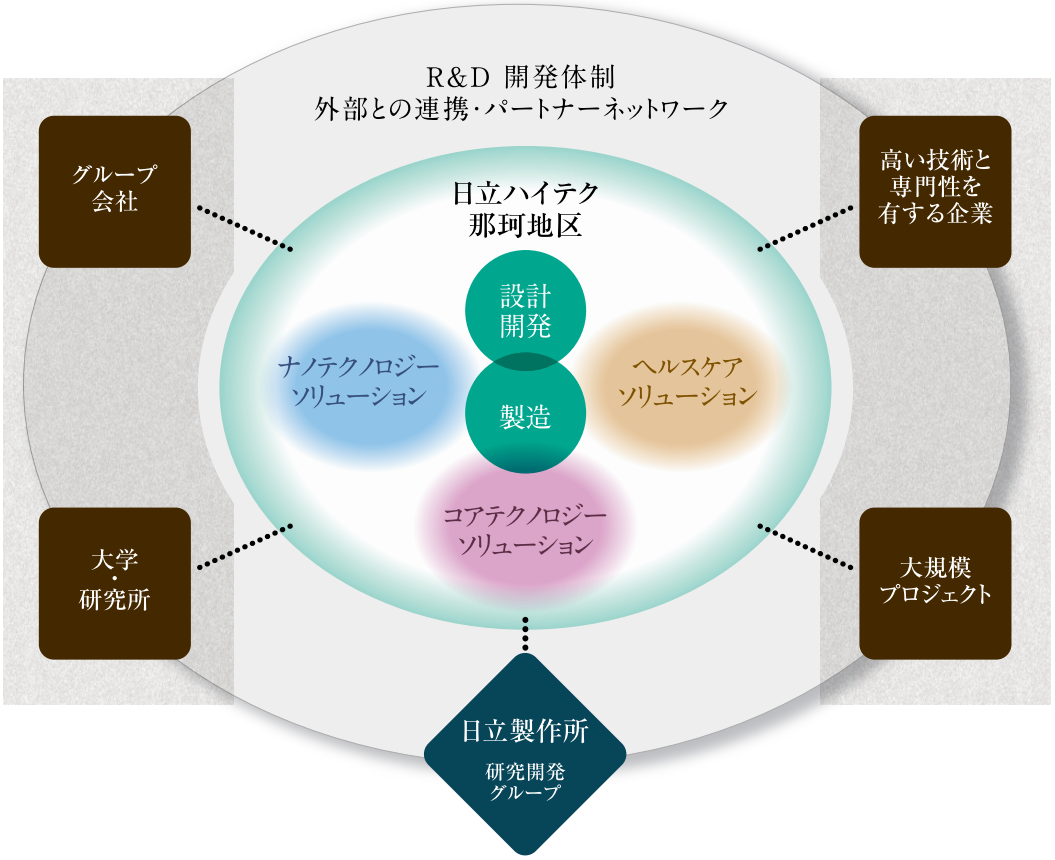
新しいこと、新しい驚きを追求し、探求してきた日立ハイテク。これからも、次の“新しい”がここから生まれていきます。













電子線技術と光学技術。
那珂地区を代表する2つのコア技術は、
次世代へ向かい、さらなる高みへと加速していく。

Electron Beam & Optical

電子線技術と光学技術

那珂地区では、さまざまな技術が集積し、日々生み出される新しい製品を作り出しています。中でも、電子線と光学は、那珂地区を代表するコアとなる技術です。ここから、この2つの技術についてご紹介します。半導体デバイスから医療、バイオテクノロジーにいたるまで、多彩なフィールドに広がる最先端の製品が、那珂地区から世界に発信されていきます。そして、次世代へ向かい、さらなる高みを目指す電子線と光学技術。そこから、那珂地区の未来像も見えてきます。



電子線技術

Electron Beam Technology

見たい。もっと良く見たい。もっと簡単に見たい。
技術の歴史は、ニーズに応える歴史でもあった。

世界から注目されるメーカーとして科学技術の発展や医学の進歩に貢献。

電子線技術を駆使した製品には、電子顕微鏡や半導体デバイス製造に大きな役割を担う測長SEMなどがあります。測長SEMとは、半導体ウェーハの微細な回路パターンの寸法を測定（測長）する走査型電子顕微鏡のこと。半導体デバイスの開発、量産に不可欠な装置です。

私たちは、常に時代を先駆ける技術力で、高いハードルのニーズに応えてきました。小惑星探査機「はやぶさ」の解析などに採用されたことからもわかるように、その評価はきわめて高く、世界からも注目を集めるメーカーとして科学技術の発展や医学の進歩にも大きく貢献しています。

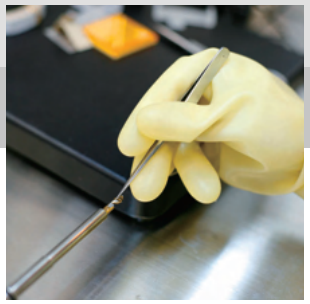
人間の特性を視野に、使う人の立場にたった操作性を追求して。

たとえば電子顕微鏡の始まりは、人の目には見えなかった小さなものを見たいというものでした。その思いに応えるため、私たちは分解能の向上に取り組んだのです。次に、より鮮明に見たいという声が生まれてきました。同時に、必要とする物質だけを見たいという声も聞かれるように

なったのです。可視化される情報の質が問われる時代といってもよいでしょう。私たちは物質を識別するという新しい課題に立ち向かい、応えてきました。そして現在、さまざまな機能は複雑な操作をもたらし、より快適な操作性が求められています。高分解能であるとともに、感覚的な操作で、見たいものを見る。人と装置のスムーズなコミュニケーションを望む声は、今後ますます広がりを見せていくことでしょう。私たちは、こうした課題に応えるため、人間の特性を視野に入れながら、使う人の目線にたった研究開発に取り組んでいく。これからも、新たな時代にふさわしい電子顕微鏡のかたちを追求していきたいと考えています。

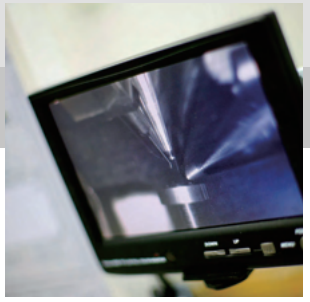
空気に触れると壊れてしまうものまで見たいというニーズに応えるために。

超高精度が求められる半導体の超微細化。ナノレベルの領域でさえ、たゆまぬ研究開発によって実現してきました。その成果は、世界トップシェアを誇る測長SEMをはじめ、様々な製品に具現化されています。現在、空気に触れると壊れてしまうものを見たいという声があります。常に新しいテーマは生まれているのです。世界一のモノづくりという自負を持ちながら、これからも社会のために何ができるかという視点を大切に、研究開発に取り組みます。



電子顕微鏡の試料ホルダーに
試料を載せている様子





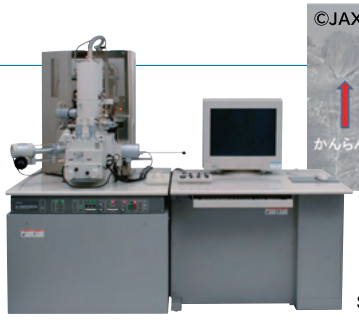
試料室(真空状態)の室内確認用LCD

TOPICS

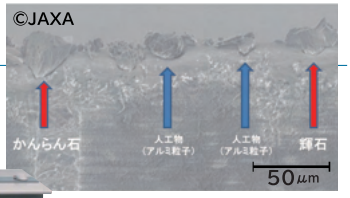
Electron Beam Technology

「はやぶさ」が持ち帰った物質の解析に日立ハイテクの技術。

小惑星探査機「はやぶさ」が宇宙から持ち帰った物質の解析に、日立ハイテクも参加しています。地球上物質の影響を抑制し、カプセルの開封から試料分取・保管が可能なクリーンチェンバーとマニピュレーションシステム。試料の高分解能観察が可能な電界放出形走査電子顕微鏡とX線分析装置など、太陽系誕生の謎を探るという壮大なテーマに日立ハイテクの製品や技術が活かされています。



S-4300SE/N



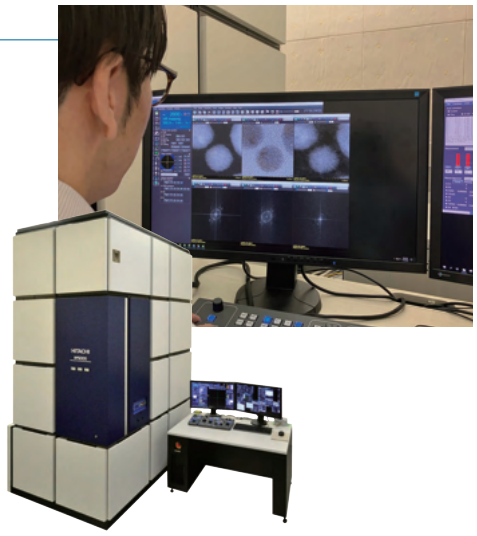
日立ハイテクの「S-4300SE/N」
で撮影されたイトカワ微粒子の
電子顕微鏡写真

お客様の解析DXを実現する新しいフラッグシップSEM『SU8600』



快適で持続可能な社会に不可欠な半導体や先端材料等の研究開発・分析において、荷電粒子技術で課題解決を実現する「走査電子顕微鏡SU8600」。要求に合わせて同時取得できる高精度な観察像や分析結果を「情報」と捉え、効率的な情報取得を可能とする自動化支援機能を搭載しています。
より細かく、より深く、より正確に解析する日立ハイテクの技術で、お客様の実現したい未来を支えます。

高い空間分解能と分析性能を実現する透過電子顕微鏡『HF5000』



ナノ先端材料、デバイスの開発・品質管理には原子分解能レベルの観察・分析が求められています。日立ハイテクでは自社製の球面収差補正器や冷陰極電界放射電子銃を搭載し、高い空間分解能と分析性能を実現した透過電子顕微鏡を製品化しました。さらに、触媒の実動作環境下に近い状態で、その場観察する機能など、さまざまな最先端材料の研究開発に貢献しています。

High-NA EUV世代のデバイス開発と量産におけるニーズに応える、従来のCD-SEMを超えた高精度計測システム『GT2000』



想像を超えた進化を続ける半導体デバイスは、その高度さゆえに開発と安定生産、二つの課題の先鋭化が顕著になっています。日立ハイテクは、その相反する課題を高レベルでクリアするGT2000を開発しました。
分解能やスループットに代表される基本性能はもちろんのこと、最先端デバイス開発における様々な要求に応える多彩な高性能計測機能を搭載することで、世界No.1の半導体計測用SEMとしてお客様のデバイス開発・量産効率を高めることにより、産業の発展に貢献しています。

半導体のパターン付きウェーハを高速・高感度に検査する暗視野式ウェーハ欠陥検査装置『DI4600』



1970年代から販売しているウェーハ欠陥検査装置。半導体の微細化に合わせ性能向上開発を継続し、従来のISシリーズから発展したDI4600では業界最高レベルのスループットを実現しました。高い欠陥検出性能との両立により、世界各国の半導体工場で歩留まり向上に貢献しております。



光学技術

Optical Technology

世界は、刻々と技術を進化させている。
常に、そのパイオニアであり続けること。

分光技術とイメージング画像処理技術。
那珂地区を代表する光学技術。

那珂地区において、光学技術を応用した製品は大きく2つに分かれます。一つは、分光技術をベースにした製品群。もう一つがイメージング画像処理技術による製品群です。

分光技術は、特に医療の分野に大きく貢献しています。たとえば肝機能を検査する自動分析装置や、高速液体クロマトグラフという薬品中の成分を検出する装置、また、最近では遺伝子検査などでも活躍しているものもあります。これは、DNAシーケンサといわれる装置で、遺伝子の配列を解析するためのものです。私たちはこの分野でも世界トップシェアを誇り、高い信頼を獲得しています。

一方、イメージング画像処理技術は、半導体検査装置などに採用され、シリコンウェーハの上にある電気回路パターンの欠陥や微細なゴミなどの異物の検査といった用途に活用されています。

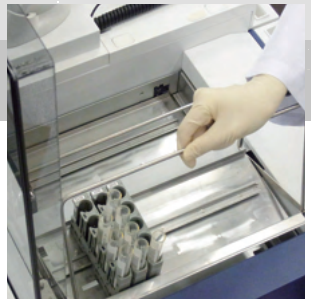
技術の創成期から培ってきたもの。
世界でもわずかしか作れない技術。

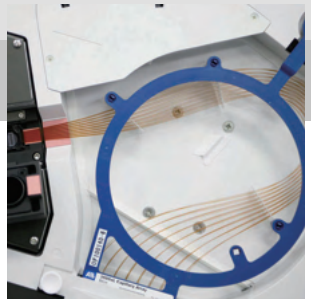
分光技術の歴史は古く、昭和30年代から世界的に

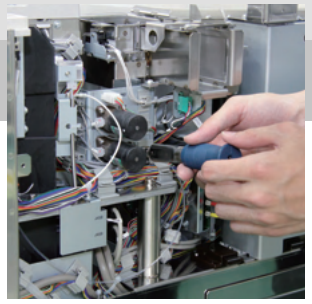
普及しはじめ、今日まで進化を遂げてきました。日立グループでは、その創成期から、研究開発に取り組んでいます。

分光技術の心臓部の技術は、回折格子です。ミラーの上に0.1ミクロン幅で等間隔に溝を刻むというもので、つまり幅1mmに1万本もの溝を刻むのです。これは非常に高い技術力を要求されるもので、精度の高い製品に使用されるレベルの回折格子は、世界的にも数社しか作ることができません。私たち那珂地区では、この回折格子の製作を独自に継続し、高い技術力を培ってきました。まさに分光技術のベースとなって、現在、様々な製品に活かされています。

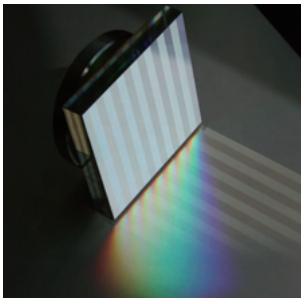
イメージング画像処理は、ニーズから誕生したという背景があります。約20年前、半導体におけるプロセス技術、検査技術はまだ創成期といえる段階で、日立製作所の半導体事業部もまだ最先端といえる位置にはありませんでした。だからこそ、当時の先端装置メーカーさえ作っていないもの、最高レベルのものを自社で作ろうというチャレンジを開始したのです。自社製造。そこに妥協はありませんでした。 そうした背景から生まれた半導体の製造、検査における技術と志は、現在から未来へ、脈々と受け継がれていきます。









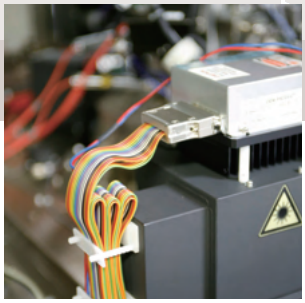




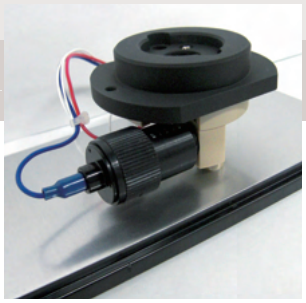
技術を探求するとともに、次の時代を展望する視点を持つこと。

ライフサイエンスの分野では、世界各国で熾烈な開発競争が行われています。まさに日進月歩のスピードで技術革新が進んでいます。私たちも世界トップシェアという位置に甘んじることなく、新しい技術、新しいシステムの開発に取り組んでいかなければなりません。創成期から培ってきた分光技術を広く応用しながら、まったく新しい発想で次世代の装置を開発する。その時、重要となるのが、ユーザービジネスをいかに理解しているかということです。

研究開発は、たとえモデルチェンジでも2年ほどの時間を必要とします。つまり、研究開発をスタートする時点では、2年後の社会と市場が要望するものを想定し、それに応えることが求められます。私たちは、自らの技術力を進化させるとともに、常に時代の先を見るという視点を持ちながら、新たな製品開発に取り組んでいるのです。







TOPICS

生化学、ISE、HbA1c、凝固、散乱の『5つの測定を1台で』測定可能にした日立自動分析装置『3500』

日立が培ってきた技術と経験をもとに、生化学自動分析装置が、複合型自動分析装置に進化した「日立自動分析装置3500」が誕生。多彩な機能と光学系の新技術の搭載により、それぞれの検査機関の業務スタイルに合わせた運用が可能です。臨床検査室に求められている「迅速かつ精確な検体検査結果の報告」に応える自動分析装置です。





日立自動分析装置『3500』

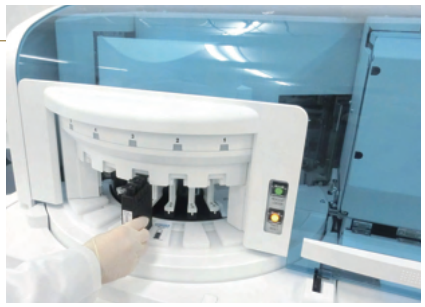
自動分析装置の進化は臨床検査室の向上につながる『LABOSPECT 006』『LABOSPECT 008α』



※操作画像は「LABOSPECT mobile」(LABOSPECT 008α用)

1970年の発売以来、日立ハイテクは臨床化学自動分析装置の技術開発に取り組んできました。検査データの質向上というニーズに応えることで、診療科のサポート、さらに患者様へのサービス向上を実現したいと考えてきました。LABOSPECT 006/008αは、高速処理システムによる迅速な結果報告を可能とした自動分析装置。技術を結集した進化のカタチです。

24時間の医療の体制に応える『cobas pro® integrated solutions』





「24時間必要なときにいつでも検査を」のニーズに応えます。分析中、装置自身が自動でメンテナンスをする機能を新たに搭載し、ユーザーの手間とメンテナンスにより検査がストップする時間を大幅に削減しました。また、検体プローブを超音波洗浄することでISE、生化学(c503)、免疫(e801)の各モジュール間の分析順序をよりフレキシブルにし、迅速かつ精確に検査データを提供します。cobas pro® integrated solutionsは、世界の臨床検査の現場で活躍しています。

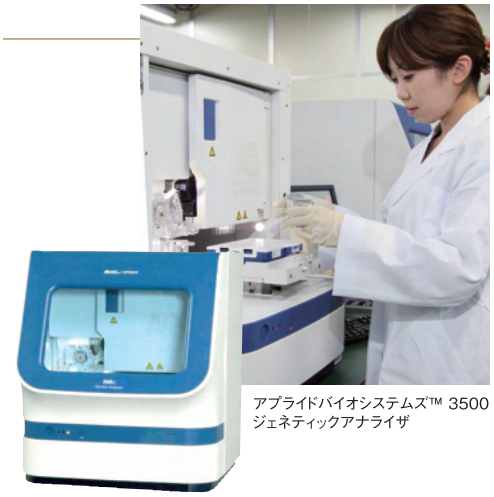
病院の診察前検査に貢献する日立検体検査自動化システム『LABOSPECT TS』





日立ハイテクは、検体検査の前処理と分析処理を自動化・迅速化することにより、診察前検査の実現に貢献します。LABOSPECT TSは、遠心分離、開栓、子分注、バーコード貼付といった前処理の機能をモジュール化し、その組み合わせで検査室の運用に合ったシステムを構築・提供します。LABOSPECTシリーズはユーザーのニーズを取り入れ、より一層進化していきます。

社会のイノベーションを支える使いやすさを追求したDNAシーケンサ『3500シリーズ』



アプライドバイオシステムズ™ 3500ジェネティックアナライザ

Copyright © 2016 Thermo Fisher Scientific Inc. Used under permission.

日立ハイテクのDNAシーケンサは、2000年の発売以来多くの国で使用され、2003年に完了したヒトゲノムプロジェクトでも大きな役割を果たしてきました。3500シリーズは、ICタグによる消耗品の有効期限や残量の管理など使い勝手を重視した設計となっており、遺伝子解析などの研究分野からDNA鑑定などの応用分野へとさらに未来へ向かって進化していきます。

時代を先駆ける製品の数々は
卓越した匠の技こそが、支えている





TAKUMI
＋
Advanced Technology

ひたむきに。まっすぐに。
磨き、極める、その先へ。

世界最高をつくる。志をつむぐ。

那珂地区のモノづくりの大きな特徴は、設計者と一緒になって、技能者たちがアイデアをカタチにしていくことにあります。そして、彼らには、社会に貢献できる製品を作り出すという誇りがあります。

日々進化する技術を貪欲に追い求め、世界最高水準の製品を作るために、腕を磨き続けていく。そこには、那珂地区に受け継がれている高い志があります。

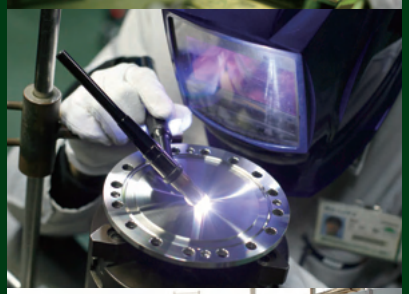
那珂地区のモノづくりは、機械部品を作るセクション、設計者とコミュニケーションするセクション、そして製造全体の流れをコントロールするセクション、さらに完成した部品を確認・検査するセクションなどによって構成されています。これらのセクションがリンクしながら、那珂地区のモノづくりを支えています。常にディスカッションしながら、より良い方法を模索し、一人の技能者としても自らのスキルアップを忘れない。そんなひたむきな技能者たちによって、私たちの製品は市場の高い評価へとつながっているのです。

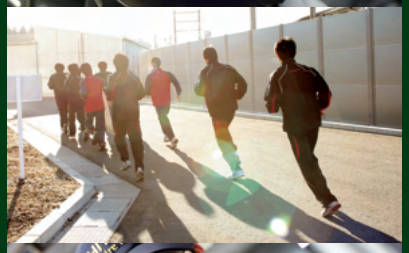
伝承していきたいのは、技術と、誇りと。

若い技能者の技能レベルを競う技能五輪という技能者の大会があります。私たちは毎年、この大会に出場し、好成績をあげています。また、技能五輪国際大会で優勝するなど、世界トップクラスの技能者集団であることも国内外に知らしめています。こうした大会は、若い技能者たちにとって、大きな目標であり、励みとなって日々の精進につながっているのです。

熟練したベテランから若手に受け継がれていく特殊技能が、私たちの最先端の製品を支えていく。技能者の胸には、同時にプライドも刻まれていきます。









削る。磨く。それは極めて精緻なレベルが要求される。技術の向上でしか応えることはできない。だから日々、鍛錬に励む。時に先輩たちの技術に学び、時に同僚の励ましを受けながら、一人の技能者として、同時に人間としても成長していきます。

SINCE 1961

日立ハイテク那珂地区の歴史

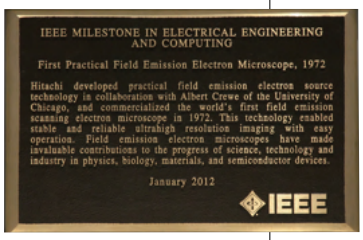
その足跡は、最先端技術へのチャレンジと、夢をカタチにする情熱の連続だった。



1961年／創設当時の那珂工場



1972年／HFS-2形
電界放出形走査電子顕微鏡



2012年／IEEEの銘板

＊ IEEE（アイ・トリプル・イー）：アメリカに本部を置く世界最大の電気・電子・情報分野の技術者の学会で、160カ国以上に40万人を超える会員を擁している。



2021年／新工場「マリンサイト」

【1961年】
（株）日立製作所多賀工場より分離独立、
那珂工場設立

【1970年】
国産初の生化学自動分析装置製品化

【1972年】
世界初の
電界放出形走査電子顕微鏡製品化

【1984年】
世界初の測長走査電子顕微鏡製品化

【2000年】
「ヒトゲノム解析」早期終了に
DNAシーケンサ貢献

【2001年】
日立製作所から分社化、
（株）日立ハイテクノロジーズ
那珂事業所に改称

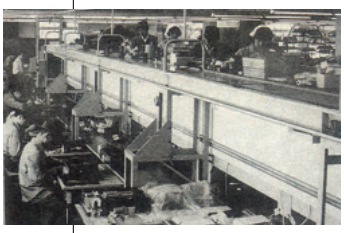
【2012年】
電界放出形電子顕微鏡の実用化が
「IEEE*マイルストーン」に認定

【2014年】
グローバルニッチトップ企業100選に認定
（キャピラリ型DNAシーケンサ）

【2018年】
日立705形自動分析装置が
国立科学博物館重要科学技術史資料
（未来技術遺産）登録

【2021年】
半導体製造装置および
解析装置の設計・開発・製造を担う
新工場「マリンサイト」竣工

【2023年】
第69回大河内賞大河内記念生産賞、
第9回ものづくり日本大賞経済産業大臣賞受賞
（極端紫外線露光世代の半導体測長SEMの開発）



1969年／光学装置組立職場



1970年／400形
生化学自動分析装置



1984年／
S-6000形
半導体用走査電子顕微鏡



2014年／
アプライドバイオシステムズ™ 3500
ジェネティックアナライザ
Copyright © 2016 Thermo Fisher Scientific Inc.
Used under permission.

見えないものを見る。測れないものをはかる。那珂地区では、この難解なテーマにチャレンジし、成果をあげてきました。
常に時代の一歩先を進んできました。それは、これからも変わらない姿勢であり、使命です。
次の50年へ、私たち那珂地区は、すでに未来を歩き始めています。

次の50年へ向かって、
私たちの未来はすでに始まっている。



Attitude to Society

品質保証への取り組み

三権分立が培ってきた品質への姿勢

品質保証部では、お客様の信頼に応えるというミッションを達成するために活動しています。それは、文化や考え方が異なる世界各国においても共通したスタンスです。たとえば、各国のニーズに適したアフターサービスのあり方も追求しています。インターネットを活用することで、世界からお客様の声がリアルタイムに集約され、そのご要望やご意見を速やかに保守サービスに反映する。そうした活動の積み重ねが、大きな満足と信頼につながっているのです。

日立ハイテクには、設計、製造、品質保証における三権分立という考え方があります。品質保証はお客様にお届けする製品やサービスに責任があります。その責任を全うするため、設計段階から品質のチェックを実施しています。こうした品質へのあくなき姿勢は、日立ハイテクの伝統でもあるのです。



開発・設計段階から、品質保証を担う品質保証部。製品を納品したあとのフォローアップも行う。業務フィールドは、全世界に及ぶ。

Total Quality Management

～ 製品開発の流れと品質保証

製品構想



ほとんどの部署が関与し、旧製品に対するお客様からの意見や故障事例などを集約し、共有。新製品の仕様の修正や変更をする。

設計



新製品のハードウェアやソフトウェアに関する各種デザインレビューを実施し、設計の早い段階での品質の作り込みを行う。

試作・認定



新製品の試作機を用い形式認定試験を実施。製品が国内の法令だけでなく各国の関連法令に準拠しているかも試験する。

生産



初期の生産ロットでは詳細試験を実施し、装置ごとの性能や品質のバラツキ、製造プロセスに問題点がないか等を評価する。

出荷



全ての製品は品質保証部門の出荷試験に合格して初めて出荷。ひとたび出荷した製品の品質は責任を持って保証する。

据付



据付時には、製品仕様がお客様の要望通りなのか、あるいはお客様が使用する環境に合致しているかなどの確認を行う。

アフターサービス



アフターサービスでは、現場におけるスムーズな課題解決と同時に、お客様の声を次の製品開発に活かすという重要な責務がある。

世界におよぶ確かな品質、地球視点の環境保全。
その取り組みは、信頼を築き、ブランドを作る。

環境との調和

心と知恵と行動で、環境を大切にする

日立ハイテクグループでは、日立グループの環境ビジョンを基に環境事業や環境経営を推進しています。その一環として、日立ハイテクは、林野庁の「法人の森林」制度を利用し、茨城県石岡市に約2.3haの国有林を借り受け、「日立ハイテクやさとの森」と命名し、2005年から60年間にわたる育林活動に取り組んでいます。

那珂地区においても、環境と調和した持続可能な社会を実現するため、日立ハイテクグループの事業所として、育林活動に積極的に取り組んでいます。

◆社員有志が枝打ちと間伐を実施

余分な枝を切り落とす「枝打ち」は、節がなく丈夫な木を育てるために必要です。また、混みすぎた立木の一部を伐採する「間伐」も、地面に日が当たらなくなると木々が大きくなることを阻害してしまうために、必要な作業となります。

那珂地区では、毎年有志による育林活動を実施しています。片道約1時間の登山を楽しみながら「やさとの森」に到着すると班ごとに分かれて指導員に道具の使い方や木の切り方の指導を受けながら、枝を切り落としたり、班のメンバーと協力して木を切り倒したりと、「枝打ち」と「間伐」を行っています。

茨城森林管理署と芳賀地区森林組合の協力のもと、今後も社員有志とその家族による育林活動を続けてまいります。



社員有志とその家族によって毎年実施されている「日立ハイテクやさとの森」の育林活動。参加者一同、「間伐」や「枝打ち」などの環境保全活動を、楽しみながら取り組んでいます。

◆日々の環境活動が未来へとつながる

現在、那珂地区全体の売上げの半数以上が、環境適合製品ですが、さらに引き上げることを目標に取り組んでいます。社会的な要請もあり、さまざまな製品が、環境配慮設計（エコデザイン）を導入した製品にシフトしています。那珂地区では、調達や職場環境の整備はもちろん、製品の開発段階から廃棄にいたるまでの環境負荷を考え、持続可能な社会の実現へ貢献していきます。

製品の多くが海外へ輸出されていることもあり、グリーンサプライヤーと呼ばれる環境マネジメントシステムの認定を受けた製造メーカーから、資材を積極的に購入するという取り組みも行っています。 人々の役に立つ製品を世界に送り出し続けるため、今後も環境活動の強化を図っていきます。

一方、那珂地区全体の省エネルギーを推進するため、計画的に変圧器や空調機を高効率タイプへ更新し、共通エリアには人感センサー付きの照明設備を導入しています。那珂地区全体、さらには部署ごとに残業ゼロの日を設定するなど、さまざまな角度からCO_2排出量の削減にも継続的に取り組んでいます。

地域貢献、スポーツ支援。持続可能な社会を目指して
企業市民としての社会的な責任をはたしていく。

地域・社会とともに

「企業市民」として果たすべき責任と役割

日立ハイテクグループは、日立グループの全体方針に基づき、社会課題の解決のために日立ハイテクらしい社会貢献活動を継続・推進しています。那珂地区においても、その方針を踏まえ、前述した「環境保全」に加え、「人づくり」「地域貢献」の3つを社会貢献活動の注力分野として取り組んでいます。

◆電子顕微鏡を通じた教育活動を積極支援

子どもたちが理科に興味を持つ機会が少なくなり、モノづくりを担う理系の人財が育ちにくいということは、日本のみならず先進国における共通の社会的な課題です。企業にとっては研究開発を担う人財の獲得難や企業競争力の低下につながりかねません。社会にとっては科学技術の発展の遅れにつながる、小学生の「理科離れ」という大きな課題を解決するために、日立ハイテクは自社製品である卓上電子顕微鏡を活用した理科教育支援活動を行っています。那珂地区においても、地域の小学生を対象に、電子顕微鏡の体験授業を実施しています。昆虫や植物、毛髪や鉛筆の芯など身近なものをミクロのスケールで見る体験を通じて、子どもたちの科学技術への興味関心を喚起。その取り組みは国内のみならず、アジア・ASEAN地域等にも広がっています。

◆地域に必要とされる存在であるために

企業は、社会の一員としてより良い社会を築き、支えることへの貢献が求められています。日立ハイテクグループは、企業市民として地域に必要とされる存在でありたいという考えのもと、事業活動を通じて地域社会へ貢献するとともに、リソースを活かして、地域の課題や発展に貢献し、地域と企業の良好な関係づくりにつなげるように努めています。

那珂地区においても、そうした考えのもと、さまざまな地域貢献活動に取り組んでいます。

平時から防災・リスク低減を徹底

那珂地区では、日立グループとして取り組んでいる事業継続マネジメントにより、平時より防災対策や法令に基づく建屋の耐震改修など、リスク低減、事業継続計画（BCP）の整備を進めています。事業継続マネジメントシステムの認証とPDCAによる継続的な強化をめざし、取り組むとともに、地域の防災拠点としても役割を担えるよう全従業員の意識の向上を図っています。

地域の方々と交流

那珂地区では、事業所開放日などを通して、さまざまなステークホルダーの方々を受け入れております。例えば、地域の方々とのコミュニケーションを図るため、毎年8月に事業所開放イベント「盛夏祭」を開催しています。地球環境問題への理解を深める環境クイズなどを体験して頂くなど、子どもたちを中心に多くの皆さんに参加いただいています。



地域社会との共生の観点から近隣の小学生の先生方と協働して進める、電子顕微鏡を用いたプログラムによる理科の授業風景。



地域の方々とのコミュニケーションを図るため、毎年8月に事業所を開放して行われるイベント「盛夏祭」。

勝田全国マラソン大会に協力

毎年、全国各地から1万人以上のランナーが集まる市民マラソン大会である勝田全国マラソン大会において、交通整理や記録係など大会運営ボランティアに那珂地区の多くの従業員が協力しています。今後も大会の円滑な運営・進行のため、ボランティア等での運営協力を継続していきます。

躍動する「クーガーズ」

地域と会社のシンボルスポーツとしての取り組み

日立ハイテクの女子バスケットボールチーム「Cougars（クーガーズ）」（WJBL※所属）は、1961年に那珂工場の女子バスケットボール部として誕生。以来60年にわたり、会社のシンボルスポーツとして、従業員とともに歩んできました。

華麗なパフォーマンスで見る人を魅了してほしいとの想いを込めて2008年にチーム名を「Cougars」に変更。コートの中を縦横無尽に走り、闘志あふれるプレイで周囲を元気づけるようなチームをめざしています。

『バスケットボールを通じた、社員の一体感の醸成と企業価値向上への貢献』がチームのビジョン。バスケットボールを通したハイテクスピリッツ（Challenge・Open・Speed・Teamwork）の具現化、さらに勝利や活躍による社員の一体感の醸成と継続的な士気高揚、そして、社会貢献活動を通じてブランド価値の向上に寄与していきます。

◆スポーツを通じた地域との交流

地域の皆様との交流活動として、長年にわたり継続して実施している小中学生を対象にした『クーガーズ・ミニバスケットボール教室』。その活動は、『バスケットボールクリニック』として全国に広がっています。小中学生を対象にした選手やコーチによる指導は、バスケットボールの楽しさを伝え、基礎技術の向上を図る取り組みとして、各地で高く評価されています。また、障がい者支援の一環として、毎年、社会福祉法人自立奉仕会の茨城福祉工場を訪問し、交流会を開催しています。

※WJBL：一般社団法人バスケットボール女子日本リーグ



クーガーズの試合風景。



災害時には周辺地域の方々が避難施設として利用できる
クーガーズの練習拠点の体育館。



小学生と交流しているクーガーズの選手たち。



















NEXT Scene

真剣であること。立ち向かうこと。

ここは、ひとり一人が、真摯に時間をつむぐ場所。

未来を見つめるまなざしがある。語らいがある。微笑がある。議論がある。
それぞれのテーマに、ひたむきに立ち向かう人がいる。



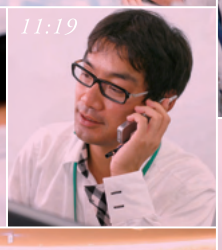




































Corporate Profile

株式会社 日立ハイテク

所在地

■本社
〒105-6409　東京都港区虎ノ門一丁目17番1号 虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー

■那珂地区
・那珂サイト　〒312-8504　茨城県ひたちなか市市毛882番地
・マリンサイト　〒312-8504　茨城県ひたちなか市新光町552番53

■グループ会社

［製 造 関 連］

◎株式会社日立ハイテクマニファクチャ&サービス
半導体製造・評価装置、分析・医用機器、電子顕微鏡などの
製品・部品・ソフトウェアの設計・製造及び設計・製造関連支援業務

◎株式会社日立ハイテク九州
医用分析装置・バイオ関連機器および消耗品の設計、製造

◎日立儀器（蘇州）有限公司
計測機器、分析機器、評価機器などの製品、部品、消耗品及び
ソフトウェアの設計、製造、販売及びそれらのアフターサービス

◎日立儀器（大連）有限公司
日立ハイテクグループからの分析装置・医用ユニット・サービス部品などの
受注・生産・販売並びに分析製品の設計・アプリ業務委託、ソフトウェア開発

◎株式会社日立ハイテクサイエンス　那珂事業所
分析、計測、観察装置の開発、製造、販売

◎株式会社日立ハイテクソリューションズ　水戸事業所
工業計測、制御用計装、情報処理機器、分析計測機器、
工場自動化システム等の企画設計、
エンジニアリングならびにソフトウェアの開発および販売

［サービス関連］

◎株式会社日立ハイテクフィールディング
半導体製造・評価装置、電子顕微鏡、分析機器、計装機器関連商品などの
据付・保守サービスおよび部品、消耗品販売

◎株式会社日立ハイテクサポート（那珂地区）茨城サポートセンタ
計測器・図面管理、スキャニングサービス、部品製作

Hitachi High-Tech Corporation

https://www.hitachi-hightech.com/jp/

VEGETABLE OIL INK

2025.4(J)